

	<p>2023年 6月1日 第156号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://mizumidori2.eco.coocan.jp E-mail : mizumidori@nifty.com 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 090-1423-9894</p>
---	---

トンボ池 豆ガエルがでてきた



トンボ池の大事件です。広い池にたくさんいたオタマジャクシが連休後には見当たらなくなり、やっぱり今年もカルガモに食べられたと思いました。

5月14日、コンテナに保護していたオタマジャクシに手足が出てきたのをのぞき込んだ時、箱の周囲にハエのような生き物がいて・・・それがカエルでした。元気よく水に飛び込んでカエル泳ぎをしたり、ちょこちょこと跳ねたりして山の方に向かっていきます。瀬田さんと一緒に小さなカエルたちを踏まないように、見守りました。草むらに散ったカエルは地面と同じ色で見失ってしまいます。落ち葉の山では見つけやすく、散歩中の男性3人組も一緒に豆ガエルをウォッチング。落ち葉の山には豆ガエルのエサになる小さな生き物もいそうです。見るとゴキブリ（家庭のゴキブリとは別種）や、クモ、ムカデ、ミミズ、アリなどもあります。トンボ池の周囲には、ヘビ、カナヘビ、トカゲが住み、地面の小さな生き物をついばむムクドリなども来ています。多難な人生が待っています。



カルガモからオタマジャクシを守るために一部分をネットで覆ったのですが、豆ガエルはそのネットの裏にいました。じっとしていたのでカエルになったばかりらしく、ネットを剥がさずそのままにしておけばよかったと、後から思いました。

カエルたちは、カルガモ除けに張ったネットの中や、ネットの縁の裏などにいました。すっきりした（のっぺらぼうな）水辺でなく、見た目は悪くても身を隠せる場所がいいのですね。カルガモ除けネットは、水の流出と同時にオタマジャクシも出てしまうので、保護ネットとしては有効ではなかったのですが、山田さんがネット内に放流したオタマジャクシ（飼育保護した）は、タイミングよくカエルになって難を逃れたようです。上陸した豆ガエルは100匹？位でしょうか。豆ガエルのうち何匹が無事に大人になれるのでしょうか。そして産卵のためにこの池に戻ってくるのは3年後でしょうか。待ち遠しいです。

カルガモはしつこくオタマジャクシを探します

今年、私はあまりカルガモを見なかったので、広い池のオタマジャクシがいなくなってカルガモの採食は終わったと思いました。

連休後、広い池からオタマジャクシがいなくなりましたが、フェンス際のクレソンの茂った小さな池に逃げ込んだオタマジャクシは無事でした（次頁写真）。よかったね、助かったね、もうカルガモは来ないよ、と一安心して、コンテナに保護した足の出たオタマジャクシ約100匹もここに移しました。が、予測は甘かった。

5月18日、クレソンは踏みつけられ水面が広がり、オタマジャクシは0。カルガモは毎日来て

いたそうです。



左：草が茂ってオタマジャクシはみえない。右はズームアップ。草が覆っていてもガマガモは見逃さない。カルガモは、見落としたオタマジャクシがいらないか、しつこく徹底的に追跡し1匹残らず食べていきます。

今年のカエルの卵もオタマジャクシも多かった

今年3月、トンボ池にはヒキガエルの卵塊が5個ありました。その後前谷津川付近の池から中島さんが避難させた卵塊とつがいのカエルが産卵して、卵は7塊となりました。橋のそばの卵塊はすぐになくなり、残りの6塊はオタマジャクシになったと思われました。

ヒキガエルが生む卵の数は2000個とか5000個とか言われ、ひも状につながっています。トンボ池で今年孵化したオタマジャクシは計算上12000匹以上ですが、外敵（人間、カルガモ、ヘビなど）に襲われ、少しずつ数を減らしていきます。大きくなると岸边に真っ黒になって集まるので、さらに狙われやすくなります。水が濁っていて、池中に散らばっているときは、何者かに追い回されたときです。

今年カマガモをあまり見かけず、5月に入ってもオタマジャクシがまだまだいっぱいいました。全部カエルになったらどうするの、と心配されましたが、そういうことは起こりませんでした。



カエルたちはたくさん産んで、何匹かが一人前になればいいという生存戦略ですが、たくさんいたオタマジャクシが食いつくされるのを見るのは切ないですね。チリメンジャコを気にもしないで食べる私が言うのはおかしいですが。

トンボ池の生き物たち

ヤゴの天敵ーザリガニもやっぱり出てきました。昨年徹底的に捕獲したのに。

写真左は冬の間直した畔に新しい穴。これはザリガニが産卵のために掘った巣穴らしい。尾坂さ

んは砂を、真田さんは土以外の草などを詰めるように言われたので、見つけ次第穴をふさいでいます。

ギンヤンマを2度見ました。ヤゴが育って来年の今頃トンボになって巣立ってほしい。

北本自然観察公園で

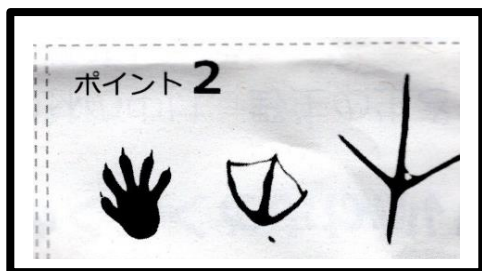
「ゴールデンウィーク・新緑オリエンテーリング」を体験

北本自然観察公園は、高崎線北本駅からバスで15分位のところにあります。普通の公園は私たち人間の鑑賞や楽しみを優先して整備されていますが、ここは自然が中心。自然を生かし、来園者が自然を発見し、楽しめるよう整備された公園です。

ゴールデンウィーク最後の5月7日、あいにくの雨でしたが、赤羽から1時間ちょっとで自然豊かな公園に到着。私たちは自然オリエンテーリングというのに参加しました。自然学習センター（ビジターセンター）に寄って、チェックポイントが書かれた地図をもらってスタート。外に出たらとても広いのです。センターに戻って「スタートの1番はどこ？」と聞いたら「観察しながらチェックポイントを探してください」と言われてしまいました。



かな公園に到着。私たちは自然オリエンテーリングというのに参加しました。自然学習センター（ビジターセンター）に寄って、チェックポイントが書かれた地図をもらってスタート。外に出たらとても広いのです。センターに戻って「スタートの1番はどこ？」と聞いたら「観察しながらチェックポイントを探してください」と言われてしまいました。



チェックポイント1番が見つかり、順番にクイズの答えを考えたり、私はこう思う、とワイワイ言いながら歩きます。広い池と湿地には、赤塚トンボ池にも生えているウキヤガラとヨシが生い茂っていて、シュレーゲルアオガエルが大きな声で鳴いていました。でもカエルの姿が見えません。なぜでしょうというクイズもありました。

上はチェックポイント2です。アライグマ、カルガモ、ダイサギの3つの足跡を探してください



い。と書いてあり、何もいない湿地をみんなで探すと、3つとも見つかりました。生き物がいなくても残っている足跡を観察できますね。生き物の名前を問われ、答えるのではなく、花の形を見比べたり、葉っぱのにおいを嗅いでみたり等々、私たちができる観察会です。

公園は荒川に近いので水辺も广大で、湿原、草原、樹林地などがあり、ウグイスがさえずり、自然を満喫しました。夏のホタルの時期には

夜間も開園されるそうです。雨だったのでチョウチョやトンボは見られませんでした。

チェックポイントにエゴツルクビオトシブミが紹介されていました。エゴノキの葉に卵を産みくるくる巻いたゆりかごの中で幼虫が育つそうです。私はまだ小さな虫まで観察の目が届かず、気が付きませんでした。城址にもエゴノキがあります。以前太田さんからエゴノキの実に産卵するゾウムシのことを教えてもらいました。城址のエゴノキの小さな虫たちもさがしてみましよう。

山田元一郎さんの感想

深大寺植物園の一部に人工的に作った植生の見本園を見学したり、今回の北本の自然学習センターでのオリエンテーションに参加して、自然とのいろいろな付き合い方があるんだな一と感じました。

我々の会の崖線の周りの自然も、これからも、じっくりと見ていきたいと思いました。



城址のガビチョウ

春先から城址の森で大きなきれいな鳴き声が聞こえます。調べてみるとガビチョウらしい。ガビチョウは特定外来生物に指定されており、歓迎されない野鳥です。写真は島田さん（5月11日撮影）提供。

目の周りの白いのが特徴で、各地で繁殖しているようです。

総会を開きました

5月27日、総会を開きました（7名出席）。オタマジャクシがカエルになったトンボ池のこと、バッタ広場の手入れなどのほか、北本自然観察公園などに出かけて自然を見る観察会も計画していくことになりました。また2023年の事業として、ボランティアセンターの夏ボラ2023と、エコポリスセンター主催の夏のエコスクールに出ることも了承されました。

トンボ池については、水を満々とたたえた状態を好む人が多いのですが、坂本の希望は橋の下流側の水の浸透を促進させ（浸透するよう池底のシートを剥がしたので）、池の水位を下げたいと思っています。水位が下がると、浅くなって作業が楽になり、水面にペンキを流したような膜が張るプランクトンの発生も抑制され、ザリガニは住みにくくなり、湿地を好む生き物が来ます

（写真左は、干上がった湿地で吸水するチョウチョ）。自然のことなのでどうなるかわかりませんが、浅い池を維持し、冬は池を干さず、様子を見ていきたいと思います。ザリガニ駆除は必須。



総会では、エコスクールのセミの講座に向けて、にわか勉強会をしました。あと2回くらい勉強会を開いて予習し、7月にはセミの死骸や抜け殻を集めて、見分け方を教えられるよう準備しましょう。



赤塚城址バッタ広場の生き物調べ参加者募集

バッタ広場の生き物を参加者と一緒に調べて、記録します。3年目です。生き物に詳しい方のサポーターもお願いします。

日時 7月29日（土）10時～11時半

日時 8月26日（土）10時～11時半

集合場所 板橋区立美術館

セミ博士になろう 参加者募集

エコポリスセンター主催の夏休み講座（エコスクール）

日時 8月9日（水）10時～11時

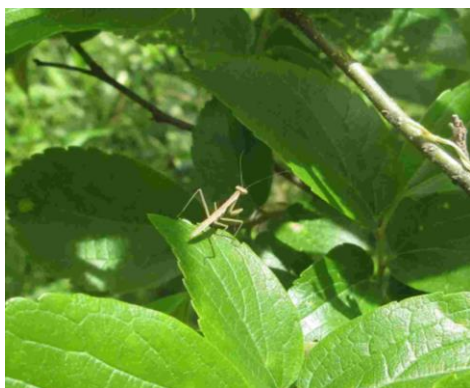
場所 エコポリスセンター

虫眼鏡とセミの死骸、抜け殻を持ち寄ります。

観察記録(2023年4月~5月)

トンボ池 ザリガニ、オタマジャクシ、トカゲ、イオウイロハシリグモ、ガガンボ産卵、ハナアブ産卵、ギンヤンマ、5月14日カエル発生

バッタ広場、ベニシジミ、キチョウ、モンシロチョウ、アオスジアゲハ、キアゲハ、コムスジ、ツマグロヒョウモン、テングチョウ、ゴマダラチョウ幼、アオスジアゲハ幼、クヌギカメムシ幼、ホソヘリカメムシ、アカサシガメ、マルカメムシ、クビキリギス、ツチイナゴ、カマキリ幼、オジロアシナガゾウムシ、クロハナムグリ、カメノコテントウ産卵、コメツキの仲間、ハムシ多、キムジノメイガ、オカモトトゲエダシャク幼?、クモ(クサグモ等)、カナヘビ、



4月23日 カマキリの幼虫が出てきた。子供のカマキリは小さくても生きた生き物を食べる肉食性。大人になるまでが大変です。



4月17日、コナラの葉裏にカメノコテントウが産卵、10日後幼虫になり、風に飛ばされて?すぐになくなった。テントウムシの幼虫たちは肉食です。ひとりでエサを探すのですね。



4月9日、エノキの葉にいるゴマダラチョウの幼虫。幼虫は葉っぱの色とそっくりでなかなか見つけられませんが、釣巻さんが発見。このゴマダラチョウは昨年秋にエノキの葉に卵を産み、幼虫はエノキの葉を食べて育ち、冬には幼虫のまま地面で越冬。春になって木に登ってエノキの葉を食べて大きくなったところ。そしてさなぎになり、羽化して成虫になります。大変な人生ですが、エノキの木が多いバッタ広場では食べ物には不自由しませんね。

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田 090-1423-9894
坂本 090-4618-1295

1 赤塚城址ビオトープちょっと観察と手入れ（第2日曜日）

赤塚城址周辺は自然が豊かなところ。生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら元いたところに返します。ササ刈り等の作業もやります（カマは用意します）。

6月11日（日）10:00～11:30

7月9日（日）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装・作業手袋（軍手）、あれば図鑑、虫眼鏡など、

2 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ（第4土曜日）

6月24日（土）10:00～11:30

7月22日（土）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

雨天の場合は中止（または翌日） 問い合わせは：事務局まで

汚れてもよい靴と服装で。作業手袋、

3 日暮台公園と樹林地の観察 日暮台公園前集合

6月4日（日）10:00～11:30

7月2日（日）10:00～11:30

8月6日（日）10:00～11:30

4 バッタ広場の生き物調べ

7月29日（土）10:00～11:30

集合場所 区立美術館前

●ビオトープボランティア大歓迎

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。

●身近な自然情報やご意見などをお寄せ下さい。